

◇ 吉 谷 一 孝 君

○議長（松田謙吾君） 続きまして、いぶき、9番、吉谷一孝議員、登壇願います。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） 会派いぶき、吉谷一孝でございます。

1項目め、令和3年度町政執行方針について。令和3年白老町議会定例会3月会議に当たり、町長は令和3年度町政運営の方針を述べられました。そこで、私は町政執行方針から3項目8点について質問をいたします。ちょうど1年前、新型コロナウイルスの発症は全世界へとその猛威が拡散し、いまだに終息の道が見えない状況にあります。本町においても町民の生命を守ることを第一に取り組み、優先させるとともに、経済活性化のために様々な対策を講じてきたところであります。一方、令和2年度はコロナ禍にあって、まちづくりの羅針盤である第6次白老町総合計画の策定、民族共生象徴空間ウポポイの開設など第一歩を踏み出したところであります。

(1)、令和2年度の総括をどのように捉えているか伺います。

(2)、町政に臨む基本姿勢5つの方針について。

①、「人と自然が共生した、安全・安心で住みよい生活環境のまち」の住環境や都市基盤の整備、防災力・防犯力の取組をどのように町民に浸透させ、住みよい生活環境を整えるのか伺います。

②、「思いやり、支えあい、みんなが元気で暮らせる健幸のまち」の総合的な福祉体制の確立や子育てを応援する健幸のまちをどのように進めるのか伺います。

③、「豊かな心を育み、生きがいを感じる学びのまち」の学校教育や社会教育の充実をどのように図るか。また、スポーツや歴史・文化を親しむ機会を創出し、高めていくとはどのような取組を進めるのか伺います。

④、「魅力と活力にあふれ、賑わいが生まれる産業のまち」とはどのような取組を進めるのか伺います。

⑤、「共に生き共に創る、町民主役のまち」の町民が積極的に町政に参画することや持続可能な行財政運営をどのような取組で共生共創のまちを実現していくのか伺います。

(3)、主要施策の展開について。

①、主要施策5つの分野で町民生活に密接な施策は何か伺います。

②、施策推進に当たって特に重点配分した施策は何か。また、その財源をどのように手当てしたのかを伺います。

○議長（松田謙吾君） 戸田町長。

〔町長 戸田安彦君登壇〕

○町長（戸田安彦君） 吉谷議員の代表質問にお答えいたします。

令和3年度町政執行方針についてのご質問であります。1項目めの令和2年度の総括についてであります。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大によりウポポイの開業が2度にわたり延期し、また東京オリンピック・パラリンピック競技大会が1年先送りされるなど、本年度の町政執行に多大な影響が及びました。白老牛肉まつり等の町内イベントの開催をはじ

めウポポイへの視察や各種大会の開催、プロモーション活動や聖火リレーの実施など、多くのソフト事業の中止や延期に追い込まれ、ウポポイの開業効果を十分に発揮することができなかった一方で、国の交付金を活用しながら新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、感染症拡大防止や地域経済の回復に向けて注力してきたところであります。

2項目めの町政に臨む基本姿勢5つの方針についてであります。1点目の人と自然が共生した安全・安心で住みよい生活環境のまちについてであります。住みよい生活環境を整えるためには地域の声に耳を傾け、地域要望に真摯に向き合いながら町民生活に直結した施策を推進していくことが重要です。このことが住む人の生活満足度を押し上げ、暮らしやすさの向上につながり、誰もが安全・安心して住み続けられる生活基盤が実現されるものと捉えております。

2点目の思いやり、支えあい、みんなが元気で暮らせる健幸の町についてであります。町民の個々の状況に合わせた切れ目のない子育て支援、健康づくりや介護予防を推進し、一人一人が健康であることで互いに支え合うことのできる町民が主体となったまちづくりを進めていくものであります。また、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症対策として医療機関等をはじめとする関係機関と連携し、町民の皆様に分かりやすく周知することに努めながらワクチン接種事業を推進し、安全・安心の確保を図っていく考えであります。

3点目の豊かな心を育み、生きがいを感じる学びのまちについてであります。学校教育においては予測困難な時代における変化を前向きに受け止め、知・徳・体のバランスの取れた生きる力を育成してまいります。特に新型コロナウイルス感染症によりデジタル化が進む社会においても、自然に触れたり、多様な人たちの関わりの中で自分の価値を認識したり、他者と協働することの重要性への理解を深める取組を進めてまいります。社会教育につきましては、公民館講座やふるさと再発見事業などの講座を通して地域を学び、人と人がつながり合い、活力あふれる社会教育事業の充実を図ります。また、町民の健康づくりを支えるため、総合体育館にトレーニング機器を整備したことにより、利用者の増加につながっております。今後も町民の健康や生きがいづくりの支えとなるよう社会教育施設を活用した事業の充実に努めてまいります。

4点目の魅力と活力にあふれ、賑わいが生まれる産業のまちについてであります。第6次白老町総合計画においては、経営基盤の強化や担い手の確保、地域ブランド強化等による産業振興を図ることとしています。特に昨年7月に開設したウポポイ等を起爆剤とした観光振興や企業誘致等に注力することは、多様な人々が本町を訪問し、または関係性を構築することに大きな効果があることから、引き続き各種施策による取組を進めてまいります。

5点目の共に生き共に創る、町民主役のまちについてであります。共生共創のまちを実現するためには多文化共生の理念の下、誰もが互いに受容し合い、共に考え、新たな価値をつくり出していくことが重要です。また、この理念を永続させるためには将来世代に負担を残さないよう効率的で効果的な行財政運営に努め、まちの持続発展に向けて取り組んでいかなければならないものと捉えております。

3項目めの主要施策の展開についてのご質問であります。1点目の町民生活に密接な施策についてであります。民族共生象徴空間周辺整備等の大型事業が一段落する中、令和3年度は

これまで見合わせてきた公共施設等の長寿命化対策や様々な町民要望など、町民生活直結型の取組を主要施策として掲げております。

2点目の重点配分した施策と財源の確保についてであります。令和3年度はコロナ禍において停滞した経済活動を活性化させるべくウポポイの開業効果を活用した施策展開をはじめ町民生活に密接した施策の推進に重点を置いております。また、本町のアイヌ施策の進行や地方創生の推進に当たっては国の交付金を有効活用しながら財源確保に努めているところであります。

○議長（松田謙吾君） 9番、吉谷一孝議員再質問。

〔9番 吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君） それでは、再質問にまいりたいと思います。

私は本日5番目ということで、前に同僚議員が質問して重複する場面もありますので、そういった部分については割愛をさせていただきまして、項目も多いことから、1項目ずつ再質問させていただきたいと思います。それではまず、1項目めから順次再質問してまいります。まずは令和2年度の総括から何を反省し、新年度ではどのように反映していくのか考えを伺います。

2項目めの基本姿勢について。1点目の生活環境の整備では、どのような尺度、指針で何を優先させる考えか伺います。

2点目の健幸のまちづくりでは、町民の皆さんが健康で幸せを実感できることが大切であり、それを評価できる仕組みが必要だと思います。各種の施策を評価するチェック、改善するアクションへの考えを伺います。また、若い世代の方々の希望をかなえる施策を立案し、実現していく考えを伺います。

3点目の生きがいを感じる学びについて。今や情報通信技術は子供からお年寄りまで生活に欠かせないものとなっています。子供たちの将来を考えると、小中学生からの取組や学力向上のツールとしては理解するものの、教育の大原則は人と人が向き合って学ぶことかと思えます。時にはアナログで心が触れ合える、そこから豊かな心を育み、生きがいを感じる。あらゆる世代が互いを高められるのではないのでしょうか。理事者のお考えを伺います。

4点目の活力と賑わいの生まれる産業であります。これまでまちは、活性化させるためには製造業等の企業誘致が効果を発揮するとしていましたが、しかしながら今の全国の現状を見ると企業誘致が成功している都市はごく少数であり、しかも誘致実現までには時間を要している実情にあります。そこで、関係人口の増加を図るべくスポーツ合宿や各種大会の開催、空き店舗を活用したサテライトオフィスなどの考えを伺います。

5点目の町民が主役のまちであります。町民が主役となり共生していくためには協働のまちづくりを基本に地域コミュニティの活性化が大切であると考えます。具体的な施策をどう考えているのか伺います。

次に、3項目めの主要施策の取組について伺います。1点目の町民生活に密接な施策であります。新たな津波浸水予想図や洪水マップはいつ頃公表されるのか、またその対応をどのようにされるのか伺います。

2点目、白老鉄北地区に計画のある公営住宅の建設予定はいつか。

3つ目、過去に埋設した上下水道管の道路の凹凸による場所を補修する考えはあるか伺います。

4つ目、高齢になっても自分らしく活躍できる場の確保が必要と考えるが、その施策に取り組む考えはいかがか。

次、もう一つは地域独自のアイヌ文化を保存、伝承するための人材育成をするとあるが、具体的な取組は何か伺います。

港湾、漁港区の狭隘を解決するためにアイヌ政策推進交付金等の活用は考えられないのか伺います。

観光産業における地域DMOの本登録の見通しはいかがか。

提携・盟約40周年となる姉妹都市交流は、子供たちが中心となる交流を進めていくべきと考えているが、いかがかお伺いいたします。

○議長（松田謙吾君） 竹田副町長。

○副町長（竹田敏雄君） それでは、私のほうから順次お答えしていきたいと思います。

まず最初に、1項目めの総括の捉え方についての部分でございます。何を反省して、新年度ではどうしていくのかという部分でございますけれども、反省といたしますか、2年度においてはコロナ禍、コロナ対策というのが大変大きな部分でありました。それと併せて今まで公共施設、インフラ等が整備が、そういうのがなかなかできなかったという部分もございました。それで、新年度につきましては町民生活に直結するインフラの整備や補修など、そういったものに可能な限り力を入れてやっていきたいということでございます。

それから、4点目の経済の関係でございます。企業誘致のお話もありました。それから、関係人口を増やしていかなければならないという部分でございます。それで、いろいろなスポーツ大会だとか、そういったものをする事によって関係人口を増やしていく、これは大事なことだと思いますので、コロナ禍もありますけれども、その終息状況を見ながらそういったものには取り組んでいきたいと思っております。

それから、2項目めの中の1点目の生活環境のまちという部分でございますけれども、何を優先して生活環境の部分で取り組んでいくのかというご質問でございます。ここにつきましては、執行方針にも書かれておりますけれども、人と自然に優しいまちをつくりたいと、それから住みやすいまちもつくっていききたい、それから犯罪や事故のないまち、それから災害に強いまちをつくっていくことを優先として取り組みたいというような考え方の中で、そういうことを取り組むことによって安全、安心に住み続けられるまちを目指していきたいということでございます。

それから、経済の関係でサテライトオフィスの話も出てきました。これにつきましては近隣市町村で厚真町だとか室蘭市が実施しておりますので、状況等も確認させていただきながら検討していきたいと思っております。

それと、公営住宅の予定についてです。公営住宅につきましては、前回お話をさせてもらいましたけれども、今回調査の予算は落とささせていただきまして、新年度で整理するものを整理

しながら建設を進めたいというふうになります。3年度で整理をして、実際は4年度以降になると考えております。

それから、下水道の関係です。下水道の工事後に道路が凹凸が発生すると、そういった部分のご質問でございました。上下水道工事後に道路が凹凸する部分については、周辺の地盤の状況、そういったものも確認しながら、いろんなことが考えられると思いますので、道路管理者と施設の管理者と協議をしながら、状況を確認しながら、日々の点検も踏まえて維持管理をしていきたいと考えております。

それから、アイヌの交付金で港の狭隘化を解消できないかという部分でございます。狭隘化を解消するハード策としたら岸壁を増やしていくという部分になると思いますので、岸壁を増やすということはかなり高額になってきますので、アイヌの交付金では難しいかなと考えております。それ以外にアイヌの農林漁業対策事業というのもあるのですけれども、その項目の中には、何点かあるのですけれども、その中にも岸壁の狭隘化という部分がないので、活用は難しいかなと思っています。それで、漁業組合との協議の中では狭隘化もあるのですけれども、まずは岸壁の老朽化を何とかしてほしいという要望がございまして、どちらかというところのほうを優先してもらいたいという話がございまして、いつできるというのもありますけれども、そちらのほうから取り組んでいきたいと思っております。

それから、DMOです。DMOにつきましては、現在準備をしているという段階でありまして、解決していかなければならない課題というのが結構ありますので、そういったものを一つ一つ解決しながら、いつまでという部分についてはなかなか言えない部分もございまして、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○議長（松田謙吾君） 古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） まず、私のほうから基本姿勢の2つ目の思いやり、支えあい、みんなが元気でというところでの実感できる評価をどうするべきなのかということでありましたけれども、このことにつきましては様々な福祉施策、計画だとかありますけれども、そういう中での町民の皆様方、利用者の皆様方からの意見等々を含めてサービスの状況等の、それから利用状況等の在り方も含めて評価をしていきたいと思っております。それに基づいて、いかにしてここに挙がっているような、本当に皆さんが健康に、元気に暮らしていく、そういう仕組みづくりがどうあらねばならないかという次のアクションを求めていきたいと思っております。大きく言えば、今は包括的な福祉対策の健康、医療、そして介護、福祉という3連携の状況をしっかりと確立していくということが大事なことでありまして、また子育て支援の部分については、ここも相談体制として子育て支援の包括支援センターということで組んでおりますので、しっかりと子育てをされている親御さんの悩み等々を含めて吸い上げながら、いかにそれを行政として施策に反映させていくかということが大事なことではないかなと思っています。そして、若い世代の意見といいますか、このまちの中で暮らしていく中で十分若い世代が生き生きと暮らしていくためには、教育もあるだろうし、それから経済的な対策もあるだろうし、今言ったような相談体制のこともあるだろうし、医療もあるだろうし、様々な観点から総合的に子育ての部分の対策を考えていかなければならないのではないかなと思っています。そういう意味で

は今後人口減の中でどう若い世代に来てもらって、ここで根を下ろして暮らしていってもらいかと、これは重要な課題だと意識をしております。

それから、重要施策の1つ目のところになるかと思えますけれども、町民生活の中で津波の関係については、これについては国、北海道に対して病院建設の関わりもあって、かなりいろんな部署にアタックをしているわけですが、今のところは6月頃に公表されるようだというので情報を取っております。そういう中で、どう避難経路等含めてマップを作っていかなければならないかということは今後の大きな対策だと思っています。今出ているのはこの庁舎のところが2メートル水深ということぐらいで、それに併せて病院を建てようと思っている現町立病院のところがどのぐらいのアップになるのか、その辺のところの推定は内部の中ではしているところがございますけれども、いずれにしろ正式な公表は6月頃、その後にマップ作りを始めたいと思っています。

それから、高齢者の活躍の場ということですが、1月末現在の高齢化率が45.8%になっております。予想というか、非常に早いスピードで高齢化が進んでいるということは確かでございますけれども、まだまだ元気な高齢の方もおられる中で、高齢者の皆様方が足が運べる、例えば高齢者大学の在り方を考えるとか、それから働くということになれば高齢者事業団もありますし、今回振興公社からくら替えをしたといいますか、一般社団法人になっております白老振興センターも働き場所として技術を持っている高齢の方、端的に1つ例を挙げますと病院のボイラーの方々なんかもそのところに入って非常に貴重な存在として活躍の場を持っておりますので、そういう場とともにみんなが集えて話をしたり、音楽を聴いたり、そういう設定も大切に持っていかなければならないだろうと思っています。

それから、姉妹都市関係については町長の執行方針の中でもありましたけれども、40周年ということで仙台含めて今は行き来をしてという形にはまだ、時期的な問題もありますけれども、なかなか難しいのではないかなと思っていますので、リモートで調印だとかいうことを含めて何らかの催しを組みたいと考えております。

○議長（松田謙吾君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 私のほうから2項目めの3点目についてお答えをしたいと思います。

吉谷議員のほうから情報化は大事だけれども、根本は人と人の関わり、触れ合いではないのかというようなご示唆をいただきました。まさに私ども教育委員会が考える不易流行でございます。新しいタブレットというような、そういう情報機器を得て、子供たちは新しい学びに適應していくことが求められます。そういった流行とともに、ただそうはいいながらも本当に子供たちが、人を育てるということは機械が育てることではなくて、やっぱり人が育てるものだと考えています。先生に褒められた、あるいは先生に頭をなでられた、こういったささやかな人と人との関わりが子供たちを育てていくのだらうと考えていますので、もともと不易と言われる人と人との関わり、これを組み合わせて、ハイブリッドという言い方を今していますけれども、こういう組合せを大事にしながら子供たちの教育活動に当たってまいりたいと考えております。

◎会議時間の延長

○議長（松田謙吾君）　ここであらかじめ宣告いたします。

本日の会議時間は、議事の都合により、あらかじめこれを延長したいと思います。

◎代表質問の続行

○議長（松田謙吾君）　9番、吉谷一孝議員。

〔9番　吉谷一孝君登壇〕

○9番（吉谷一孝君）　吉谷です。今理事者の方々、教育長からお答えいただきました。まさしく教育においてはあくまでもツールであって、使うものであって、使われるものではないと私も思いますし、私も子育てしながら子供を見ていると、道具として使っているのか、遊ばれているのか、どういうことなのだろうということは感じながら、そういうことも想定しながら進めていきたいなと思いますし、あとチェック、アクションの話在先ほどさせていただいたのですが、計画して実行するまでは一生懸命行うのですが、その評価と改善という部分についてはいろいろな部分で足りていないのかなど。それをつなげる意味ではチェック、アクションがなければ回っていかない部分がありますので、そこについてはいま一度皆さんに努力のほうをしていただいて、改善していただければなと思います。

それでは、これまで非常に厳しい財政状況の中、本日までこの改善に努められた、何よりも町民のために心つながる笑顔と安心のまちの実現を目指し、ウポポイを核とした産業の活性化やまちづくりへの町民参加、健康福祉、教育環境の整備など、着実に推進してこられました。新年度は、共に築く希望の未来、しあわせ感じる元気まちを目指し、決して妥協することなく、互いに力を合わせ、建設的な議論を重ねていくと述べています。そこで、最後になります。町政執行方針から新型コロナウイルス対策や町民に密接した事業の展開など議論してまいりましたが、町長の令和3年度に向けた意気込みをお聞きして、会派いぶき代表質問を終わりたいと思います。

○議長（松田謙吾君）　戸田町長。

○町長（戸田彦彦君）　町政執行方針、体制の総括の意気込みのご質問だと思っております。まず、今もそうなのですけれども、まず新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと進めていきたいと思っております。今一番大切な町民の生命を守るということでございます。それと併せてワクチン接種事業が始まりますので、こちらも町民の生命を守る、本当にスムーズに執り行っていきたいなと思っております。

令和3年度は、第6次の白老町の総合計画の初めての予算編成ということで、8年後のまちの将来像の実現に向け歩む最初の一步の年となります。ポストコロナもそうですし、その前からなのですけれども、コロナが終息した暁には経済対策もしっかりと打っていきたいと思っておりますし、それとウポポイが開業した効果を十分に発揮していかなければならない年でもありますし、ウポポイで周辺整備で予算をそこに傾注していた分を町民の生活に今度は重点を置く施策の年でもございます。そういう意味では大きな年になるのかなと私も思っておりますので、議員の皆様と一緒に力を合わせて、町民のため、町のために令和3年度は執行していきたいと考

えております。

○議長（松田謙吾君） 以上をもって、いぶき、吉谷一孝議員の代表質問を終わります。